

令和 8 年度 日野町長施政方針

令和 8 年 3 月 6 日

この度、2月24日付けで、第9代日野町長に就任いたしました。議会の皆さまとは、日野町が抱える様々な課題について、逐次私の考えをお示しし、ご相談しながら施策を進めて参りますので、よろしくお願いいたします。

私は、故郷日野町を「消滅可能性自治体」から脱却させたい、させなければならぬとの強い思いを持って日野町長へ就任しました。また「明日がたのしみな町、日野町」を目指す町の姿として掲げています。この思い、考えに沿って進めていく施政方針を述べさせていただきます。

1. 「消滅可能性自治体」からの脱却

「消滅可能性自治体」とは、増田寛也氏らが編纂された書籍「地方消滅」及び「地方消滅2」で示された概念で、20～39歳の女性人口、これを若年女性人口と定義し、若年女性人口が今後30年間で50%以上減少する自治体を指しています。日野町を含む日野郡3町は、この「消滅可能性自治体」に含まれ、いずれ消滅する可能性が高い自治体と考えられています。「日本の地域別将来推計人口」によると、日野町では、2020年から2050年までの30年間で若年女性

人口が 64.6 %減少するものと見積もられています。「消滅可能性自治体」から脱却するためには、この若年女性人口の減少率を 50%以下にしなければならないということです。これが、「消滅可能性自治体」脱却のための目標になります。

ただし、若年女性人口のみを指標とすることは、若年女性のみ将来の責任を負わせるようなことが発想され、施策としてバランスを欠く恐れがあります。若年女性人口のみを指標とせず、男女の若年人口、つまり 20～39 歳人口の減少率低下を目指す施策に取り組んでまいります。減少率低下のための施策とは、若年人口の流出を防止し流入を促す施策となります。施策策定に当たっては、思い込みを排し、単なる他の受け売り策でもなく、日野町の実状に沿った施策を講じます。

一方で、若年人口を対象とした施策に偏重し、高齢者向け施策が疎かにならないように配慮することを忘れてはなりません。

2. 「明日が楽しみな町、日野町」

日野町の目指すべき姿として、「明日が楽しみな町、日野町」を掲げています。「明日が楽しみ」とは、病から回復して明日退院する、明日になったら家族と会える、というような、健康や不安の解消、今日頑張ったこと、挑戦したこ

との結果が待ち遠しいというような、自分を奮い立たせて頑張ること、課題に取り組むこと、目標を目指すこと、挑戦することの楽しみ、そして自分自身、仲間、子供達の成長を楽しみ、自己実現の姿を楽しみとする姿です。そんな明るい未来を描ける町、それが私の目指す「明日が楽しみな町、日野町」です。

3. 重点施策

「消滅可能性自治体」から脱却、「明日が楽しみな町、日野町」を目指し、以下を私の町長就任にあたっての重点施策といたします。

(1) 子育て・教育

「消滅可能性自治体」脱却で取り上げた若年人口、20～39歳の世代は、まさに子育て世代です。子育て世代の大きな関心事は、もちろん教育であり、子育て世代の流出を食い止めるためには、魅力的な教育を提供することが必須です。

ア. 義務教育 日野学園

日野学園においては、人口減少とともに児童・生徒数が年々減少し、1学年1学級の維持も困難な状況にあり、複式学級となる様相です。このことが教育への不安につながり、子育て世代の流出に拍車をかける負のスパイラルに陥っています。負のスパイラルから抜け出すために、少人数の弊害を克服する高品

質で魅力的な教育に取り組みます。流出から転じて子育て世代を他地域から呼び込むことまで目指します。

一例として、国際バカロレア（IB）プログラムの認定を受け、探求型教育の導入などについて実現性、妥当性の検討を始めます。

イ. 就学前の子育て

旧日野中学校内に設置された、「しいたん広場」は、町外からも多くの利用者がある人気の施設であると認識しています。人気の理由をしっかりと分析し、子育て家庭のニーズを捉えることで、子育て家庭向け施策に反映します。

ウ. 日野高校の維持

日野高校魅力向上推進協議会の中で、日野郡3町、鳥取県と連携して協議していきますが、日野高校の在り方、目指す姿を今一度整理する必要があると考えています。

（2）医療・福祉

ア. 日野病院

地域医療機関の維持は、町民の健康確保に必須であることは言うまでもありません。そんな中、日野町が中心となり運営する日野病院は、鳥取大学医学部との連携等により、多くの診療科と高度な体制を維持しながら、黒字経営を9

年連続達成しており、経営基盤が比較的安定しています。しかしながら、人口減少とともに経営が困難となることも予想されます。地域医療の維持に課題を抱える周辺自治体と連携を図り、この日野病院の持つポテンシャルを最大限発揮して維持していく方策を実施します。また、健康診断の充実などにより、癌などの早期発見、成人病予防に結びつけ、町民の健康年齢向上へ取り組みます。さらに、人間ドック、先進的癌検診を提供し、他地域から受診者を呼び込む医療ツーリズムの可能性検討も始めます。

イ. 高齢者の不安への対応

町内では、高齢者のみの世帯、高齢者独居世帯が増加しており、社会的孤立、孤独感を覚える方々が増えています。これらを解消するため、地域巡回訪問の充実、集落支援員の増員、小さな拠点の拡充を継続するとともに、ICTツールによるコミュニケーションの導入についても検討を始めます。

その他は、「第9期 日野町高齢者福祉計画 介護保険事業計画」に従って進めていきますが、進捗をしっかりとモニタし、必要な手直しは逐次行っていきます。

(3) 産業振興

ア. 基幹産業としての農業・林業

日野町の基幹産業である農業・林業は、いずれも後継者不足の課題を抱えています。日本全体が人口減少する中で、簡単に後継者を育成、確保できる状況ではありません。スマート農業・林業を導入し、後継者不足を補うこと、6次産業化による収益性向上などは、多くの地域で取り組まれている対策であり、日野町においても促進していきます。後継者不足の問題については、昨年11月に「日野町新・農業推進プラン」を策定しました。この中で、次の4項目の基本方針と目標値を設定しています。

- ・ 将来を見据えた担い手づくり
- ・ 日野町農林振興公社の機能強化
- ・ 循環型農業で土づくり・特産物づくり
- ・ 地域の農地をみんなで守る

令和7年度から11年度を事業年度、12年度を目標年度としていますが、進捗をしっかりとモニタしながら、確実に進めてまいります。

加えて、林業については、伐採適期でありながら放置された森林が多くあり、これらは、産業資源として適切に活用しなければなりません。新設が計画される広域基幹林道金持秋縄線活用なども視野にした林業活性化に取り組めます。

イ. 商工業振興

起業や新規分野への参入、需要掘り起こしなどへの挑戦を支援していきます。商品力魅力アップ支援事業補助金、創業等支援事業補助金は継続するとともに、拡充を図ります。リノベーション Lab、旧日野中学校内のサテライトオフィスについては、これまでの実績をきちんと検証した上で、その在り方を見直します。これら施設を起点に、挑戦したくてウズウズしている鬱憤を解放する機会を提供します。

ウ. 観光業

知的好奇心を刺激する観光、体験型観光資源の発掘、開発を目指します。日野町内には、たたらなどの産業遺跡、歴史的建造物、史跡も存在します。見て帰るだけの観光ではなく、学び、体験し、滞在や繰り返し来訪してもらえる観光プラン作成を目指します。観光から関係人口増加へ繋がります。

オンドリ観察、金持神社については、来訪者の動向調査などを行い、需要に合致したサービス提供を追求します。サイクルツーリズムの推進も図ります。

エ. 新規事業

これまで我が町は、新規事業の可能性に対する感度が鈍かったと考えています。農林業、商工業、観光業ともに、感度を高めて我が町に見合った新規事業を実現するべく、私が先導してまいります。

(4) 交流の拠点整備

日野町には山陰地方で最も重要な鉄道路線の一つである伯備線が走っています。特急が停車する根雨駅周辺には町役場、日野振興センターの行政機関、スーパー、ホームセンターなどの商業施設、教育機関としての高校が立地し、街機能を集積したコンパクトシティとなるポテンシャルがあります。ポテンシャルを発揮するためには整備が必要であり、駅東西を結ぶ通路の設置、無人となった駅舎の活用などに取り組みます。今後、二地域居住、ワーケーションが活発化すると見込まれ、この場合に、他地域との交流拠点となります。また、広く日野郡、岡山県北部地域を含むエリアへの交流拠点となることも目標とします。

以上が就任にあたって重点施策とする事項です。

なお、就任してからの時間が短く新規事業等の予算化に向けた検討・調整の時間が十分に取れなかった事情から、今回の当初予算には盛り込めず骨格予算となっております。6月議会にて肉付け予算のご審議をいただきたく、ご理解とご協力をお願いいたします。

日野町長 近 藤 宏